

続ける力と感謝の心

長崎県

諫早少年剣道 亀舟館

中学3年 宮崎 結

今年は私にとって生涯忘れることのない思い出の年となりました。

四月、最高学年となり、剣道部のキャプテンとして最後の年が始まりました。はじめの頃は、自分の指示がなかなか部員に通らなかったり、瞬時の判断ができなかったりして、チームをまとめる大変さと責任の重さにたくさん悩むことがありました。そんな時いつも仲間が助けてくれました。「頑張ってくれてありがとう。」「何かあったら言ってね。」など声をかけてくれました。そのおかげで自分の役目を最後までやり遂げることができました。

七月、全員で「全中出場」という目標を立て、県中総体に臨みました。その日は、メンバー全員が調子が良かったわけではありませんでしたが、キャプテンとして一人ひとりに声をかけ、持ち前のチームワークで団体優勝することができました。

そして八月、九州大会と全中に出場しました。結果は、自分たちの目標には一歩およばず、悔し涙を流しました。しかし、この仲間と共に出場することができたことと、諫早中として二年半素敵な先輩や後輩、同級生、先生方に出会い、活動できたことに感動しています。これを機に、また次の日から頑張らなければいけないと実感した大会でした。

全中が終わって、私はパナソニック杯第18回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の長崎県代表に選ばれ、合同の稽古がはじまりました。全中出場や全国道場連盟出場と合わせて、私の今年一番の目標であった大会に出場することが決まり、とても嬉しかったです。最初の頃はチームになじめるか不安でした。また、練習日程表が決まり見てみると、土日は遠征で平日も月曜以外は稽古というハードなものでした。しかし、素敵なチームメートに恵まれ、厳しい稽古もやり抜くことができ徐々に団結力も高まっていきました。そして本番では、メンバー全員が一致団結し、一人で戦うのではなく、みんなで勝つという意識

を持って戦い、全員の目標である「日本一」を達成することができました。私はこの瞬間、涙が出るほど嬉しかったです。土日の遠征では、なかなか自分の納得のいく試合ができず、勝率を上げることができませんでした。自分はチームのためになっているのか、役に立つためにはどうしたらよいのかと思い悩む日々が続いていました。そんな時、みんなが相談に乗ってくれ、先生方が稽古をたくさんつけて励ましてくださいました。

小学一年生から剣道を始め、小さい頃から指導してくださった道場の先生方、応援し支えてくださった多くの方々のおかげで、この日本一をとることができました。

今年の経験を通して、私は「夢や目標は叶う」「私たちは自分が思っている以上の力と可能性を秘めている」と実感しています。そして、夢や目標を叶えるためには、努力を継続し、感謝の気持ちを持ち続けることが大切だと学びました。私は小学5年生の終わりからコロナ禍となり、大会がなくなり面を付けての稽古もできなくなりました。そんな時でも家や道場で、できる練習を続けていました。環境や調子が良い時も悪い時も前向きに稽古を休まず、努力を続けることが大切だと、父が教えてくれました。これからは、私を応援し支えてくださった方々や仲間への感謝の気持ちを忘れず、あいさつや礼儀、後輩のサポートなど、できることを考え行動で表していきます。

来年は、高校生となります。文武両道を目指し、これまで以上に誰にも負けないくらい勉強と稽古をしていきます。そして、新たな仲間と共に高校でも「日本一」を目標に頑張ります。そして、将来は、日本代表として世界と戦う剣士になります。